

首相閣下よ、生等は決して、階級意識なるものに囚はれて、反抗的に、主張の急の主張を為すものではありませぬ。生等は、真に我が日本の社会的行詰りを思ひ、それが明治維新前の幕府末当時に行拂たるものある事を思ひ、しかも必然の推移は円滑に運ばれなければならぬ事を信じ、日本の社会改造は常に下の要求を理解した人材を代表せしめて上から行はれたものである事を信じ、今や這の震災の破壊正るや實に天災の絶好機会なる事を確認し痛感するの余り、一片の赤誠又己を能はず、敢て信頼を置く閣下の内閣に對して、恐らくは何人と雖も帝に贊同するであらう必要政策を建言するものに外なりませぬ。

ぬ。

首相閣下よ、繰返し述ぶるを許されよ。帝都の復興は單なる帝都の復興案を以ては成し遂げ得られませうか、况んや復興以上の発展をや、又况んや保険金補助支拂の如き筆法の施策を以てをや。生等は、成立当初の間接的諸声明を過信したるが爲か、將又、最近の発表には或は特權階級に對する駆引の存すべきを解し能はざるが爲か、兎も南も閣下の内閣は生等の頼りの網を断ち切らんとせらるるもので無からうかを疑はざらんとするも能はざる主觀に立つものであります。

首相閣下よ、閣下の内閣はその成立当初、生等の豫想する以上の全體的改革案を提げて苦心經營せられんとの一々覚悟なるものの如く、間接的に彼れん水声明せられ